

**令和7年度第2回京丹波町地域包括ケア推進委員会及び
第1回京丹波町地域包括支援センター運営協議会並びに
第2回京丹波町地域密着型サービス運営委員会**

日時：令和8年3月23日（月）

午後1時30分～午後3時

場所：京丹波町役場 2階 大会議室

出席者：片山委員長、荒牧委員、矢田委員、畠中委員、山田委員、谷口委員、
山口委員、村上委員、上林委員、瀧村委員、越川委員、石田委員（12人）

欠席者：津田副委員長、堀委員、谷山委員、桐野委員（4人）

事務局：健康福祉部 中川部長
健康福祉部医療政策課 中野課長
健康福祉部福祉支援課 原澤課長、上西係長、堀補佐、中川主任
（福）京丹波町社会福祉協議会地域福祉課 山本課長（京丹波町生活支援コーディネーター）

1 開会（原澤課長の司会により進行）

2 委員の交代について（報告）

新たな委員紹介：矢田明美委員（委嘱状は事前交付）

3 開会あいさつ（片山委員長）

皆さまご苦勞様でございます。本日の会議は、京丹波町の福祉に関わる中枢の会議だと思います。

皆さまには、忌憚のない意見を積極的に発言いただき、限られた時間ではありますが、活発な議論をできればと思います。よろしくお願いいたします。

4 協議事項

(1) 第2回京丹波町地域包括ケア推進委員会

第10期介護保険事業計画等の策定に係るアンケート調査結果の中間報告について

・アンケート調査結果概要 **資料1**

・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 自由記述一覧 **資料2-1**

・在宅介護実態調査 自由記述一覧 **資料2-2**

（説明：事務局）

【質疑】

特になし

(2) 第1回京丹波町地域包括支援センター運営協議会

地域包括支援センターの運営状況報告について **資料3**

（説明：事務局 堀補佐）

【質疑】

委員：アンケートで悩みについて書いておられる方々は、実際に地域包括支援センターの支援につながっているのかを確認したい。

京丹波町の人口規模から考えると認知症のケース自体は決して多くはないと考えられるが、介護を担う家族の負担は非常に深刻であると感じている。

こうした切実な声が単なるアンケート結果にとどまるのではなく、実際の支援へと結

びついているのか、どういう形で進んでいるのか、現状を知りたい。

事務局：アンケートについては匿名で実施しているため、回答者を特定して直接個別にアプローチすることは難しい状況ではある。

現在、認知症の人と家族の会を積極的に開催しており、アプリ、広報紙、文字放送、ケアマネジャーを通じた周知を行うとともに、一度参加された方にはチラシを郵送するなど、継続的なつながりを保つ工夫を行っている。

悩みを抱えている方がいらっしゃる場合には、地域包括支援センターへ相談していただけるよう、委員の皆様からも声掛けにご協力いただきたい。また、各事業所様でも直接ご対応をお願いしたい。

委員：サロン活動などからもお困りの情報が上がっていくと思う。介護者が一番疲弊するのは認知症介護。認知症は新たに発症する方が継続的に生じることから、広報活動も継続的に行い、引き続き地域包括支援センターでも力を入れていただきたい。

過去に、男性介護者のみの集まりを開催した際には、男性同士で普段言えない苦労をざっくばらんに話すことができ、非常に有意義であったことから、今後はこのように属性別の集まり等も包括支援センターが中心になって企画していただけたら嬉しい。

事務局：継続的な広報の大切さについて承知した。認知症に関する交流会については、今後さらに開催頻度を増やしていきたいと考えている。

(3) 第2回京丹波町地域密着型サービス運営委員会

地域密着型サービスの現況報告について 資料4

(説明：事務局 上西係長)

【質疑】

特になし

5 その他

事務局：次回、令和8年度の会議については、初回を夏頃に開催の予定。

来年度は計画策定の年となるので、年度内に4回の開催を予定。

引き続きご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

委員長：介護保険についても色々決めていただかないといけないことが出てくる。皆様方にはまたお世話になりますが、ご協力の程よろしくお願ひいたします。

その他ないでしょうか。

委員：今回の会議の中で特に重要だと感じたのは、「全国一律のサービスから、地域の特性に応じたサービス基盤の整備へと転換していく」という考え方についてである。

京丹波町のような中山間地域では、人口減少や高齢化が進む中で、これまでのようにサービスを維持していくことが難しくなっているのが現状。そのため、都会と同じ基準のままでは、この町の福祉を守ることはできないと感じている。国もようやく地域ごとの事情、特に過疎地や中山間地域の実情を踏まえた方向へと舵を切ったことは非常に重要であり、この考え方を次期計画にしっかりと反映させていく必要があると考えている。

町の現状についても強い危機感を持っており、人口が1万2千人を下回ろうとしている中で、働き手不足や事業所の撤退といった課題も深刻化しているという状況を踏まえ、京丹波町の実情に合った独自の計画、第10期計画をしっかりと策定していかなければならないと考えている。全国に先駆けてこういったことに取り組んでいってほしい。

事務局：地域の特性ということが明確に打ち出されたことは画期的であり、全体的な議論を注視しつつ計画に反映していきたいと考える。引き続き委員の皆様にもお世話になりたいと思います。

6 閉会あいさつ（片山委員長）

先ほどもお話があったとおり、全国一律でサービスを提供していくことが難しくなってきたと感じております。

今後、新しい介護保険制度を考えていく中で、こうした点も踏まえながら、京丹波町の課題を

さらに深めていき、それを計画に反映していければと考えております。本来であれば、もう少し皆様からご意見を伺いたかったところではございますが、本日は色々とお世話になりありがとうございました。